

三原の木原小5・6年生



大鯨島で岩場の生き物を調べる児童たち

# 無人島で児童水質調査 海守る大切さ学ぶ

三原市木原の木原小児童たちが22日、沖合約400  
メートルにある無人島「大鯨島」に渡り、海の環境調査をし  
た。水質や岩場の生態系を確認し、生き物がすみやす  
い海を守っていく大切さを学んだ。  
(政綱官規)

5、6年生5人全員と教 瀬戸内海エコツーリズム協  
諭、地元関係者たちが上陸 議会(広島市南区)の上嶋  
した。海水の透明度や水温 英機理事長の指導を受け、

## 福山・尾三

中国新聞 4/24 6/9

# スナメリが快適な海 再び 三原・木原小 児童ら大鯨島で生息調査



大鯨島の海岸で生物を調べ  
る子どもたち(三原市で)

読売新聞 4/23 (水)

三原市立木原小の児童5  
人が22日、地元の沖合にあ  
る無人島・大鯨島(周囲約  
300メートル)で、スナメリの  
生息に関する調査をした。

スナメリはイルカの一  
種で、体長は1・5メートル前後。  
「スナメリクジラ」「デゴ  
ン」とも呼ばれる。住民ら  
によると、大鯨島周辺では  
1990年代以降、見かけ  
ることが少なくなったとい  
う。

木原小の児童は近年、「ス  
ナメリクジラを呼び戻そ  
う」プロジェクトと名付け、  
生態を学習。餌となる魚の  
すみかを作ろうと、アマモ  
を島の周囲に植えている。  
この日は活動の一環とし  
て、三原市漁業協同組合の  
船で上陸。海岸でカキ、イ

ソギンチャクといった  
の種類や数を調べた。

6年の岡本要君(11  
歳)は「2月に来た時よりウ  
シが多かった。楽しかつ  
と喜んだ。」

指導した「瀬戸内海エ  
コツーリズム協議会」(広  
島市南区)の上嶋英機理  
事長は「目撃情報などが  
最近増えていると思われ  
る」と話している。こ  
れを取り組みが他校に  
広がってほしい」と話  
した。

を置き、その中の貝や海藻  
の種類と数を記録した。

同小は2015年から、  
かつて付近で見掛けられ  
たスナメリを呼び戻そうと、  
アマモ場の再生に取り組  
んでいる。本年度も定期的

をする。6年胡本朋輝君  
(11)は「スナメリがすめる  
くらい、豊かでない海  
にしたい」と話していた。